



ほうきさん 2015年10月

椋本673 存仁寺

世俗の倫理の
行き詰まる
ことを
教えるのが
仏法

「栗山力精」

— 私の見方、聞き方 —

九月二十七日は、仲秋の名月。スーパームーンでありました。皆さまはご覧になれましたか？「外へ出て見ました」「きれいなお月さんでした」「思わず拝みました」と、感想を聞かせていただきました。ところで皆さんは、月を何で見ましたか？「自分で見た」「目で見ましたよ」、本当に？「？」

こんな言葉があるのです。「わが目にて月を見たとは思ふなよ、月の光で月を見るなり」と、私が見たとはいうが、月の光があつてこそ月が見られたのです。同じように「わが機にて弥陀をたのむと思うなよ、弥陀の力で弥陀たのむなり」とあります。私が参ったのですがそうではない、私が称えているのですが、私ではない、阿弥陀さまのはたらきが「われにまかせよ、われをたのめよ」と先手をかけて私に届いてくださつてあるからこそ、参る身にならせていただきました、称えられる身にならせていただきました。

そんな話を坊主としていたら、「月を見るか」「光を観るか」表面や形ばかりではものの見方や考え方が全く違つてくるのではないのか、形ばかりにとらわれて大事な自分自身を見つめることができないということも多々あるのではないか、そんな会話へと発展していきました。例えば「仏壇は何のためにあるのだろうか？」「それは、亡き人や先祖さんを祀るためにある」とおっしゃる方が多いでしょう。しかし、それは仏壇ではなく先祖壇、位

牌壇です。仏壇は阿弥陀さまの浄土を相を顕したものであり、浄土から私の元へとおはたらきくださっているはたらきを顕したものです。「南无阿弥陀仏は智慧の名号なれば、この不可思議の智慧光仏の御名を信受して憶念すれば観音・勢至は必ずかげのかたちにそえるがごとく也。この無碍光仏は観音とあらわれ、勢至としめす。ある経には、観音を宝応声菩薩となづけて日天子としめす。これはよろづの衆生の无明の黒闇をはらわしむ。勢至を宝吉祥菩薩となづけて月天子とあらわる。生死の長夜をてらして智慧をひらかしむる也」(『唯信証文意』)と、闇に迷う私を照らし導いてくださつてあります。そこに遇わせていただいている中での礼拝の思い、心持も違つてきます。単に形として表面を見ると、形を通して奥を見ていくのと、まったく姿勢も違うでしょう。もう間もなく皆さんも人生の終着駅に着きます。間もなくですからまだ少しは余裕のある方も、まだ大分余裕があるとの思いを誰もが持つてはいるでしょう。しかし、終着駅に降りてそれで終いなのでしょうか、そこから始まりなのでしょうか。「死」とは、無になる？霊魂は残る？お墓に行く？天国に行く？冥土という闇の世界に行く？浄土に往く？いのち終つていくのが浄土であるのか？浄土ってどんな世界？浄土に往くとまたこの世に還つてくる(往相・還相)？いろいろな？が出てきました。み教えに聞いていきましよう、誰のことでもなく私のことなのですから。

10月の行事

1日(木) 6時30分 おあさじ
7日(水) 19時30分 コーラス
12日(月)～13日(火) 秋季永代経法要
13日(火) 正覚寺様親睦の会
16日(金) 6時30分 おあさじ

秋の法座〈秋季永代経法要〉

10月12日(月) 午後1時30分

10月13日(火) 午後1時30分

法話 大阪 法栄寺 小林顯英師

法題「阿弥陀さまは、どこに？」

秋の永代経法要のご縁です、どなたさまも
お誘い合わせて、ご参拝ください。

11月の行事

1日(日) 6時30分 おあさじ
19時 仏教壮年会例会
3日(火) 10時 日曜学校・子ども会
4日(水) 19時30分 コーラス
5日(木) 13時30分

無量寿会報恩講法要 高木格英師

16日(月) 6時30分 おあさじ
23日(月) 10時 日曜学校・子ども会
28日(土) 8時30分 すす払い 中組
30日(月) 8時30分 おみがき

12月1日(火) 6時30分 おあさじ

2日(水) 19時30分 コーラス

宗派・教区・鈴鹿組関連

10月4日(日) 鈴鹿組二十五日講法要
西願寺 午後2時
10月14日(水) 鈴鹿組門徒総代会
名古屋別院奉仕団
10月19(月)～20日(火) 鈴鹿組仏教婦人会
本山念仏奉仕団
10月18日(日) 鈴鹿組第19回門徒推進員養成
連続研修会 養宗寺
「御同朋の社会をめざす運動」
なぜ差別はなくならないのでしょうか

11月5日(木)～6日(金) 東海教区門徒総代会
一泊研修会 名古屋別院
11月15日(日) 鈴鹿組第19回門徒推進員養成
連続研修会 西願寺

12月23日(水) 連研修了式 名古屋別院にて

総代・世話方会より

護持経費後期分・積立金未納の方は今月末頃
に伺いますので、ご協力の程何卒宜しく
お願い申し上げます。

「世俗の倫理の 行き詰まることを

教えるのが仏法」

「人間として生きていく上には、世俗の倫理を無視することはできないことであろう。しかし、世俗の倫理の行き詰まることを教えるのが仏法なのである。仏法はすべてのものの上につながり、通ずるものである。仏法に生きるものであるならば、世俗の倫理よりも仏法が優先する筈である。これが仏法者としての願いとなつて生きてくるのである。順序も、義理も大切なことであるが、これを超えて、自由に溶け合う道が仏法であり、自分自身をさらけ出すことによって十分に話し合いのできるのが仏法である」栗山さんが寺報『海』の巻頭言に約四十年前に書かれたものですが、現在ただ今もその意は十分に通じると受け止めています。とにかく私たちは世俗に押し流されて、そこかしこ、行き詰まって混乱しています。それはやはり世俗の論理に振り回されていることを明示しています。そのことに気づくかどうかで、生き方が変わってきます。

二〇一五年法語カレンダー

「心に響く言葉」より